

第40号



2015.1月



発行 城里町社会福祉協議会 ☎ 029-288-7013 FAX 029-288-7021 ホームページ <http://www.shirosato-syakyo.com>
編集 広報ボランティアグループ



「那珂川大橋」上空から城里町を望む

美しい橋がある。キラキラと輝く川がある。
その先に我が町城里がある。素晴らしい眺めだ。
この自然豊かで、のどかさあふれる町を愛そう。そして明日への
希望を抱き、ともに進んで行こう。さらに住み良いまちづくりを
目指して！



会長あいさつ

城里町社会福祉協議会
会長 上遠野 修

まだまだ寒い時期が続きますが、町民の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。常日頃より、社会福祉協議会の活動に對しまして、ご協力、ご支援を頂いておりますことに心より感謝申し上げます。

さて、社会福祉協議会は、多様な福祉ニーズに對応すべく、実に多岐にわたる活動を行なっております。どの活動においても根底にあるのは、共に助け合って生きていくという「協働・共助」の考えです。既存の制度だけでは対応が困難な問題を、地域における協働、共助により解決していくには、町民の皆様のご協力、ご支援が必要不可欠です。皆様からのより一層のご支援をいただくために、「見える社協」を推進し、役職員一丸となつて努力していく所存でございます。

また、虐待や孤独死などがクローズアップされ、社会的に問題となつております。弱い立場とされる幼児、障がい者、高齢者が安心して安全に住むことができる城里町をつくりあげていくことも重要な課題です。平成24年4月の自立支援法（現障害者総合支援法）、児童福祉法の一部改正、平成27年4月の生活困窮者自立支援法の施行、介護報酬の改定など、福祉を取り巻く環境は大きく変化しています。社会福祉協議会としても、すべての方が地域で自分らしく生活できるよう支援をしていきたいと考えております。今後とも「協働・共助」の理念を基に努力していく所存でございますので、町民の皆様のご協力、ご支援をお願い致します。

ひつじ

今年の抱負 未



平成3年生まれ
萩谷 貴恵さん
(阿波山)

年女の1年は、今までに出来なかったことをしようと思います。そして、今年1年も地元の友達、ファミリーと楽しくさががしく過ごしていこうと思います。



昭和54年生まれ
小瀧 真一さん
(下赤沢)

今年で3回目の年男となりまして。これまでは大過なく迎えることができたことは、日々の健康管理をしてくれている妻と、元気を与えてくれる子供達のおかげだと思います。今年も体調には気をつけて、家族のために仕事を一生懸命、頑張りたいです。



昭和42年生まれ
佐竹 洋子さん
(阿波山)

今年の抱負は、「二日一生」一日の積み重ねが一生となり、無駄にせず一日を全力で過ごすことです。看護職として、また家族を守る母妻として充実した一年になるように努めていきたいと思っています。



昭和30年生まれ
金長 典子さん
(石塚)

今年は1日3000歩以上の徒歩を目標に頑張ります。私は20歳から60歳の友人たちと、音楽鑑賞・運動・作品作り・模擬店等、毎年様々な計画を基に楽しんでいます。これからも、年代にとらわれない人生を過ごしていきたいと思います。



昭和18年生まれ
加藤木きよ子さん
(孫根)

今年6回目の干支を迎え72歳になります。健康維持のため、高ク連のゲートボール、カラオケ、健康サロン等で楽しんでいます。又「やまびこ」音楽教室の皆さんと、福祉施設を訪問し、ボランティア活動も行なっています。これも健康であればこそ出来る事と思い、健康に感謝し、これからも続けたいと思っています。今年は自然災害などがなく、誰もが幸に暮らせる一年でありますようお願いいたします。



第10回 城里町表彰式典

城里町社会福祉大会

平成26年11月26日(水)にコミュニティセンター城里において、第10回城里町表彰式典並びに城里町社会福祉大会が開催されました。

式典では、上遠野修町長より式辞があり、続いて表彰状の授与、来賓祝辞、閉式の辞で式典が終了となりました。

今回受賞された方々の氏名、団体の名称は次のとおりです。なお、敬称は略させていただきます。

城里町長表彰受賞者

- ◆自治功労表彰 阿久津藤男、三村由利子、加藤 文夫
- ◆一般表彰(表彰状) 渡邊 眞玉、加藤木正道、今瀬 満、大越わくり、松崎 國麿、園部 良子
小林 玉枝、阿久津精一、塩澤 光三
- ◆一般表彰(感謝状) 飯村 祐子、大和田茂夫、介川ゆみ子、小澤 久子、吉田 孝生

城里町社会福祉協議会長表彰受賞者

- ◆ボランティア表彰 宮本加代子、加藤 福子、加藤三代子、酒井 里子、興野 正江、大越 規男
宮本かづえ、大津ヒロ子、飯村千鶴子、信田 育子、菊池 良子、櫻井 末子
阿久津理子、磯部 明代、鶴沼 孝子、大越 文江、岡崎 貞夫、加藤木和子
車田 綾子、小島 秀子、坂下 利子、田辺 和子、皆川 恵子、山下 芳子
横田美恵子、丹下 信子、卜部 道子、大津 文子、浅野美智子、赤津 蒔
渡邊 勇、鯉淵 幸子、住谷 里子、住谷 晋、松崎 幸子、卜部 吉雄
木村 輝芳、高木 英明、廣木 信近、茂木 忠勝、八田 雅明、石原 悦子
- ◆社会福祉団体役員表彰 廣木 龍雄、阿内智慧子
- ◆ボランティア感謝 森田 淑子、高堀 優子、袴塚 良子
- ◆社会福祉協議会役員感謝 阿久津藤男、高野 静、(故)浅野妙子、三村 三、綿引 征一、駒井 英子
大越わくり、杉本 秋子、大崎 勝也

◆善意銀行

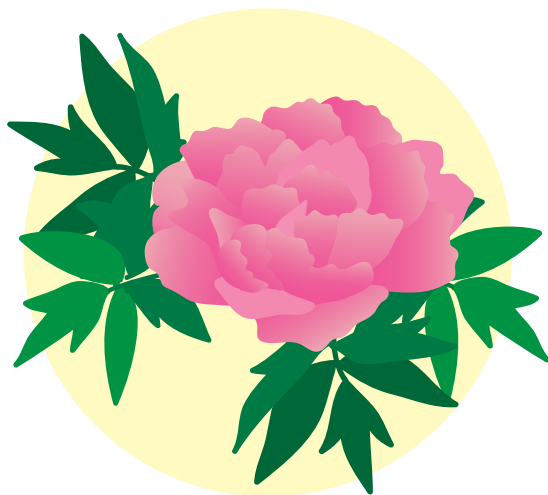
飯山 常、青柳 英幸、園部 孝志、園部 春香、山崎 秀雄、森田 肇、(故)江幡 照夫、皆川 泉
三村 良次、加藤木 賢、小貫 修一、長尾 麗子、檜山由紀子、島 榮、横倉 芳郎、船橋 行子
浅井 勉、城里町文化協会、石塚サントラベル株式会社、増井一区夏祭り実行委員会、与三郎庵、城里町
くらしの会、常北女性会、利根コカ・コーラボトリング株式会社常陸大宮支店、水戸ヤクルト販売株式会
社、錫高野かし祭り実行委員会、手話サークルつばさ、城里町商工会女性部、しろさと七夕まつり実行
委員会、常陸農業協同組合七会支店

茨城県知事表彰受賞者

大越 正子、加藤木憲子、小林美智子

城里町花いっぱい運動コンクール入賞団体

- ◆地域の部 最優秀賞 磯野そよ風ガーデンクラブ
優秀賞 上坪長寿会
勝見沢区
上坪フラワーボランティアの会
- ◆学校の部 最優秀賞 七会小学校
優秀賞 石塚小学校
常北小学校





活動を見守る加藤さん(右端)

加藤さんは小学生の頃、ガールスカウトに所属していました。ある時、野外活動に参加、キャンプファイヤーを囲み皆でワイワイ。その時見上げた夜空には満天の星が!!息をのむほど美しく、感動したことが忘れられない思い出となりました。そして自分の子供たちにもいつか見せてあげたい、同じ感動を経験させてあげたい、と思いつけていました。9月13日、阿久津勝紀(元

きめると生きる ボーイスカウトに携わって 子供たちの成長が喜び

加藤悠子さん(石塚)

常北町長)さんら多くの方々の熱意により、ボーイスカウト常北第1団の発団式が行われました。そしてビーバー隊(幼稚園〜小1年)8名、カブ隊(小2年〜小5年)16名(女子を含む)が第1期の隊員として入団しました。この時、加藤さんの2人の子供さん(小1年、小3年)も入団しました。同時に団委員に任命され、以来今日まで子供たちの活動や育成に携わってきました。今ではボーイ隊(小6年〜中3年)ベンチャー隊(高校生)、ローバー隊(高卒〜24歳)などに編成され、子供たちは成長と共に隊を移動し、活動をしています。隊では戸外や自然の中でスポーツ、自然観察などを通して、社会のルールや自立心を学びながら、人思いややる心、相手をいたわる心を育てる活動をしています。特にビーバー隊では「仲

良く遊ぶ、物を大切に」を常に話しています。

発団当初は、常北町の方々だけでしたが、今では桂七会の方も入団し、名称も城里第1団と変わりました。また今年8月には、4年に1回行なわれる世界ジャン



何がいるかな?

ポリー大会が山口県で開催され、城里第1団から2名が参加することになっています。

加藤さんは保育士でもあります。那珂市の保育園に毎日通い、土日はボーイスカウトの活動にと休む暇もないほどです。特に野外活動の企画や準備など大変なこと多いのですが、持ち前のバイタリティーで見事やりとげています。そして「活動を通して、子供たち皆の成長を見られることが、何よりの大きな喜びです」と語っていました。

ボーイスカウトの問い合わせ

加藤宅(288-4499)

つくしの四季 (34)

昨年11月22日(土)、水戸特別支援学校で水陽祭がありました。僕の卒業した学校で、毎回欠かさず足を運んでいます。

今回は、茨城でボランティア活動をしている、勇気と元気をくれるバンド「YES BAND」が学校でライブしてくれました。僕はこの方達のファンで、去年知り合いになり、そこから交流を持つようになりました。自分自身もYES BANDの曲を聴いて歌詞に心打たれて励まされる部分がありました。

特別支援学校ということもあって色々なことを秘めている家族も多いと思い、少しでも何か感じてもらえたらいいなという気持ちから、YES BANDに声をかけました。すると快く受けてくださり、学校から許可をもらい実現することができました。



YES BANDのライブの様子

最初はどの位の人が集まってくれるか不安でしたが、放送で「今からYES BANDのライブをやります」と流してくれたので、思った以上にたくさんの方が見に来てくれて嬉しかったです。ライブは盛り上がり、この日販売したオリジナルのアルバムも売れました。「学校生活の思い出ができた」と号泣してくれた人や、「CD買ったよ」と声をかけてくれた先生もいました。本当にライブをやっていただきよかったです。また機会があったら今度は城里に来て、皆様に聴いてほしいです。それが次なる夢です。(加藤直)

「いいとみさい」 に参加して 《男塾 磯部長司記》



体育館の準備をする男塾の会員

昨年11月22日(土)、城里町ボランティアグループ「男塾」の会員10名は、水戸飯富特別支援学校の「いいとみさい」に参加してきました。私は、展示作品を見回る役を担うことになり、時間をかけて作品をじっくり鑑賞することが出来ました。その出来栄は、すばらしいもので、作品を詳細に見ていると教育指導の適切さ、緻密さが彼らの才能を発掘し、生かすことが出来ることを実感し、人間の可能性

の大なる事を発見しました。更にそのことは、各学年の遊戯、劇の発表、発表時の司会・進行にも表れていました。先生方が一人一人の児童生徒をしっかりと見守り、手を取り足をとり指導している姿を垣間見ることができました。しかも子供達が、それらを心より受け入れ、先生と一体となって楽しく活動している様を見て、心から教育指導の在り方の大切さを学びました。

子供達の活動は、農作物の展示と販売と多岐にわたり、教育指導内容も多様で先生方の熱意と苦勞を改めて感じました。

また、男塾の会員が他のボランティアと協力して活動している姿には、心の温かさを感じました。

今回のボランティア活動を通して支援学校の理解が深まり、更に私たち男塾会員が一同に会し、それぞれの状況を語り合い、絆を深める機会が持てたことは、とても有意義な一日になりました。

ホロリのたまご 〜城里町民まつり〜

昨年11月15日(土)、16日(日)と2日間常北中学校協会の通称三角グラウンドにおいて、毎年恒例の城里町民まつりが開催されました。15日は朝から抜けるような青空が広がり、早くからまつりに関係する方達が大勢で催し物や出店の準備に右往左往していました。一般



会場の様子

の方々も10時の合図の花火を待ちきれず会場へと入って行きました。

まずは手前のテントから順に覗いていく人、あるいはお目当ての場所へ直行する



園児のダンス

る人、何人かが集まって周りをしながら何やら相談をしている人達、とそれぞれの人々の波が動いていました。「いらっしやーい」「おいしーよ」「寄ってっー」などの呼び声やメインスタン

ドでの催し物の音楽や司会者の声などが響き、さらには行き交う人達の話し声が入り混じってそれはそれにはぎやかなこと。またどこからか焼き物のいい匂いがしてきて思わず足を止め、お目当てのものを買い求める人、皆それぞれの楽しみ方で会場を散策していました。

「子供達は？」とみると沢

山の配布物やプレゼントの収集に一生懸命。両手いっぱいにはビニール袋をぶら下げ満足した様子で歩いていました。

昼近くになると人出も最高潮、食べ物屋さんの中には長蛇の列ができ、お店の人達も汗を拭きながら注文に応じていました。風もなく穏やかな天気であったことが、何よりも良かったのではないかと思います。

そしてこの賑わいをもっと多くの人達に味わってもらえるよう、旧町村単位でまた開催できればいいなと思いました。



笑顔と優しさで包まれた 第4回 桂小まつり

昨年11月1日(土)午後から、桂小学校の体育館において、第4回桂小まつりが開催されました。体育館の前半分は児童達で、後半分は家族や地域の人達の席ですが、昇降口まで人があふれ超満員になりました。

最初、法被を着た児童達のよさこいソーラン踊りが始まると、大きな歓声が湧き上がり、一気に会場内の熱気が上がりました。



歓声に包まれ元気いっぱい踊る児童達

まつりの前半は児童発表で、朗読劇・合唱・マツト運動などが学年別に披露され、そのたびに大きな歓声と拍手に包まれました。

後半はふれあい体験活動で、北方の高齢者クラブ・PTA・先生方と児童みんなで、昔遊びのけん玉・お手玉・輪投げ・シノ鉄砲づくりなど、普段やらない色々な昔遊びを体験しました。



シノ鉄砲づくりに真剣な眼差し

体育館の外では雨の中、錫高野の高校生クラブ・高久高年者クラブの方々が、おにぎり・豚汁や蒸しさつまいもをそれぞれ朝から準備をし、来場者に配りました。いずれもおいしく、その気使いにお腹も心も温まりました。

また、ポップコーンや綿アメは人気があり、長い行列が出来ていました。父兄にまつりの感想を伺ったところ、「地域の方との交流の場が出来て、ありがたい」とのお話でした。

あいにくの雨で、肌寒いはずなのに、ここだけは笑顔と優しさに包まれている感じが暖かでした。

第5回 錫高野 いも煮会と力カシ祭り

「こんにちは。良い天気ですね」思わず話しかけてしまいそうな力カシ達。

昨年11月22日(土)、県道246号線に隣接する広場で、第5回錫高野いも煮会と力カシ祭りが開催されました。「地域の皆と楽しい時を過ごし、元氣な錫高野を作る」で始まったこの祭りも年々盛大になり、数多くの力カシが設置されていました。テレビで話題になっていた物・地元ならではの物・収穫の秋を題材にした物等、どの力カシを見ても見事な出来栄です。今年は桂小



本物そっくり。老夫婦のかかし



いも煮を作っている様子

学校・地域活動支援センターつくしの力カシも会場に華を添えていました。「本物の人間みたいだね」今にも動き出しそう「そんな言葉もあちこちから聞こえてきました。」

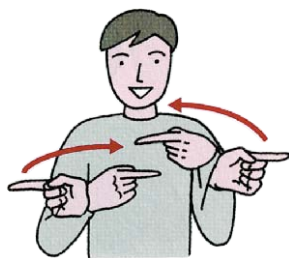
トランペットの生演奏の中、いも煮会でも、老若男女たくさんの人達が、地元産の野菜がたくさん入ったけんちゃん汁や焼きそば等に舌鼓を打っていました。

祭りは、錫高野いき生きクラブを中心に地域の人達が一丸となり、皆が心底楽しみ、とても暖かい雰囲気でした。この祭りの中で集められた募金は、今回も社会福祉協議会に寄付いただきました。

手話を学ぶ

⑪ 正月

新しい年が始まり、今年も良い年でありますようにと願ったことでしょう。今回は、正月に関係した手話を学びたいと思います。
「正月」「1月1日」
両手の人指し指を伸ばし、手首をひねって真ん中に持ってくる。



上の手が月を表し下の手が日を表します。

「新しい」

両手を上向きにしてすぼめ、パツと開きながら下げる。



両手をパツと開きながら上げると「おめでと」です。



小勝の山間に、100㎡のビニールハウスが9棟。そのうち6棟で畑わさびが育てられています。「ななかい畑わさび研究会」会長阿久津道男さんを含む5人の方々のハウスです。初出荷は平成23年65kgでした。以来、生産を伸ばし昨年は1200kg育てたわさび全てを葉と茎に分け、初出荷以来、大手コンビニの食品工場に納入しています。

わさびは、醤油などで味付けされ、主におにぎりの具として7・8月限定で「城里産ワサビ葉・茎使用」と表示され、県下600の店で販売されています。評判がよく、他県での販売計画もあり、増産の要請もあるそうです。

「特産物開発研究会」が母体

山桜開店当時、特産品を育てたいという意欲ある人々が研究会を作っていました。平成22年、その研究会に笠間農業改良普及センターから、畑わさび栽培の提案があり、9



ななかい畑わさび研究会のみなさん

名が応じ、作り始めました。平成25年4月には、現在の5名で研究会を立上げ、現在に至っています。

また、11月に苗植えの後、12月から3月まで、温度管理と水遣りに気を使うと言います。3月から6月が収穫時期です。

「農のあり方」のひとつの模範

当研究会、県の「食と農のチャレンジ事業」に採択され、事業費の2分の1の補助をもらっています。意欲ある人々が栽培する作物と購入先を決め、公的な推進事業の要件を満たし、事業をすすめる。今後の「農のひとつのあり方」を示しているようです。

親子・孫三世代みんなで 孫根区生涯学習大会

昨年の11月9日(日)桂小學校にて、孫根区生涯学習大会が開催されました。

午前中は校庭で開会式の後、グラウンドゴルフ大会が始まりました。三世代がひとつのグループになつて、子供達には大人が教えながら、にぎやかにゲームが進んで行きました。途中、雨になり体育館にてゲームが再開され、終了後、表彰式もありました。



三世代一緒にグラウンドゴルフ

お昼は、蒸かしたてのお赤飯が配られ、雨で冷えた体に温かいお赤飯はおいしかったです。

午後は、プロ顔負けの司会でカラオケ大会が始まりました。14組の出場があり、親世代は堂々と、子世代は緊張し、孫世代は恥ずかしながらの熱唱でした。続いて、花笠音頭と安来節の舞踊が披露され、いずれも拍手と歓声に包まれました。

最後は、プロ歌手の三城ゆり子歌謡ショーで、デュエット等もあり、歌声とパフォーマンスにはさすがプロ歌手と圧倒されました。



歌謡ショー

学習大会は、「三世代の交流を通して、日頃疎遠になりがちな地区住民の親睦を図ることを目的に毎年開催している」と孫根区長・片岡さんのお話でした。

グラウンドゴルフ・お赤飯・カラオケや舞踊、そして歌謡ショー等と内容が盛りだくさんで準備された方々の「孫根愛」が感じられた温かい学習大会でした。

「明け方」

右手の親指を人指し指を開いて丸め、左手の外側を下から上にゆつくり上げていく。



左手を水平線(地平線)に、右手を太陽に見立て太陽が昇る様子を表す。朝日・日の出も同様。

「神」

両手のひらを2回打ち合わせ。



かしわ手を打つ様子を表す。

「初詣で」

(正月十神)

「あけましておめでとう」

(正月十おめでと)

「初日の出」

(正月十明け方)

(すぐに使える手話辞典 6000より引用)

わが町の
さわやか元気さん
(33)所
けいさん 90歳
下青山

けいさんは、5年前にご主人が他界されました。娘さんも嫁ぎ、現在は息子さんご夫婦と3人で暮らしています。お2人が早朝に出勤されますので、朝は5時半頃に起きて3人で食事をします。日中は1人なので野菜を作ったり、屋敷の草取りをしています。

飯田
進さん 93歳
好枝さん 92歳
上

けいさんの年代は和服での生活なので、お裁縫は大事な仕事でした。家政女学校で和裁を学んだけいさんは、難しい袴も縫えるそうです。

飯田さんご夫妻のお住まいは、那珂川の堤防沿いの静かな環境の地に在ります。広い敷地の中の別棟には息子さんのご家族も住んでいます。

昭和34年から農協に勤務をしていた進さんは、工学を学んだ経験を生かして、有線放送に関わる事業と水道工事の技術部門の仕事をし、昭和63年に退職をしました。

です。90歳になっても健康で若々しく生活できるのは、嫁いでからずっと、鋤鋤での農作業で体を鍛えているからでしょう。近所には同年代のお友達も多く、月4回の下青山サロンに参加しています。その後お茶を飲んだり、おしゃべりをしたり楽しく充実した毎日を送っています。

お体に気をつけられてお友達とふれあいながら明るく楽しい日々を送ってください。

お2人の共通の趣味はクロツケーです。毎週月曜日と金曜日、午前・午後と練習をしています。その時持参する好枝さんの煮物と漬物は好評とのこと。9人のメンバーの仲間の皆さんとの交流も深まり、クロツケーを続けていて良かったと話されました。

新年を迎えられたお2人の更なるご長寿をお祈り致します。

しろさと
熱気球
(23)

毎年初冬になると、20mもある熱気球の大群が風に乗り、色づいた山々を越え、城里町にやってきます。

これは、ツインリンクもてぎで開かれる「とちぎ熱気球インターナショナルチャンピオンシップ」の競技飛行コースに城里町が入っているからです。熱気球は風だけで飛ぶために、決められたゴールへ向かうのは、かなり難しいようです。



那珂川大橋を越えて行く熱気球

突然の熱気球出現にビックリ。悠然と風に乗る飛んで行くその姿に、ワクワクドキドキする胸の高鳴り。これは熱気球がくれたサプライズプレゼントですね。

目次

●表紙	1
●会長あいさつ	2
●今年の抱負	2
●社会福祉大会	3
●さらっと生きる	4
●つくしの四季	34
●いとみさい	5
●町民まつり	5
●桂小まつり	6
●力カシ祭り	6
●手話を学ぶ	11
●畑わさびで町と農の活性化に一役	7
●孫根区生涯学習大会	7
●わが町のさわやか元気さん	33
●しろさと	23
●目次・編集後記	8

編集後記

年が改まった。が、なぜかピンとこない。車の往来も近所隣りの人達の行き来も年を追う毎に少なくなっている気がするし、家々のしめ飾りも同じように思う。日常の物の動きやまわりの華やかさが年末年始の区切りを感じさせないのかも知れない。普段でもスーパ―は遅くまで開いているしコンビニは24時間営業している。そんななかで新年の雰囲気になつかしく思うのは年のせい？

(わ)